

コメデイカル

各施設の取り組みを紹介し、情報共有化を図った



(CE)が、さらなる安
全性向上へ取り組み状況
を報告した。
北大病院は、手術室十
七室のうち一室をロボッ
ト手術専用とし、機器ト
ラブルがあれば手術室工

品購入、診療科連携など
を総合的に進めており、
会議開催はCEが取り仕
切っているという。
毎週金曜日を手術日と
定めている函館五稜郭病
院は、CEが前日に機器

病棟口腔ケア徹底

歯科衛生士を常勤配置

函館・高橋

拒い、術中はペーシエン
トカートやモニターなど
の調整、気腹開始操作、
DVD録画確認、電気メ
ス設定、トラブルに対応

ンクと点検▽電源供給配
分と周辺機器の管理▽映
像記録装置の設定▽保守
点検、トラブル対応。手
術室看護師との共同業務

安全面への工夫として
札医大病院は、電源ケ
ーブルを保護するジョイ

研修センター(石合純夫
センター長)を開設。高
度化する医療に臨床対応
できるリハビリ専門職を
育成する、「理学療法士・

函館市の高橋病院(高
橋肇理事長・百七十九
床)は、歯科衛生士を正
職員として病棟に二人配
置し、全入院患者に対し
て口腔ケアを実施するこ
とで、口腔内トラブルの
減少につなげている。
回復期リハビリ病棟で
は脳卒中、心疾患、肺炎
など加齢に伴う疾患が多
く、口腔内トラブルに伴
う食欲や活動量の低下が
課題となっていた。
歯科衛生士の常勤化と

言語聴覚士のリハビリに
よって、早期から口腔内
環境改善に向けてのアプ
ローチが可能となり、栄
養状態の改善、運動機能
や免疫力の向上を図って
いる。
二週間後に行う再評価
では、発熱回数や誤嚥性
肺炎の発症率の減少とい
ったデータも得られてい
るといふ。

病棟看護師への指導も
行うことで、看護師もケ
アに参加し、口腔ケアの

効率的な維持に役立って
いる。
北村和宏看護部長は

「介護報酬上の加算分
は人件費の採算は合わな
いのが現状。しかし、介
護病棟、回復期リハビリ
病棟では誤嚥性肺炎予防
により、薬剤や医療材料
の持ち出しが軽減され、
経済的メリットも期待で
きる」と話す。



全入院患者を定期的にスクリーニングし、
早期からケアを実施している